

第1回高等学校改革懇談会資料 (川俣)

令和元年5月23日(木) 14:00～15:30
川俣高等学校 会議室

福島県教育委員会



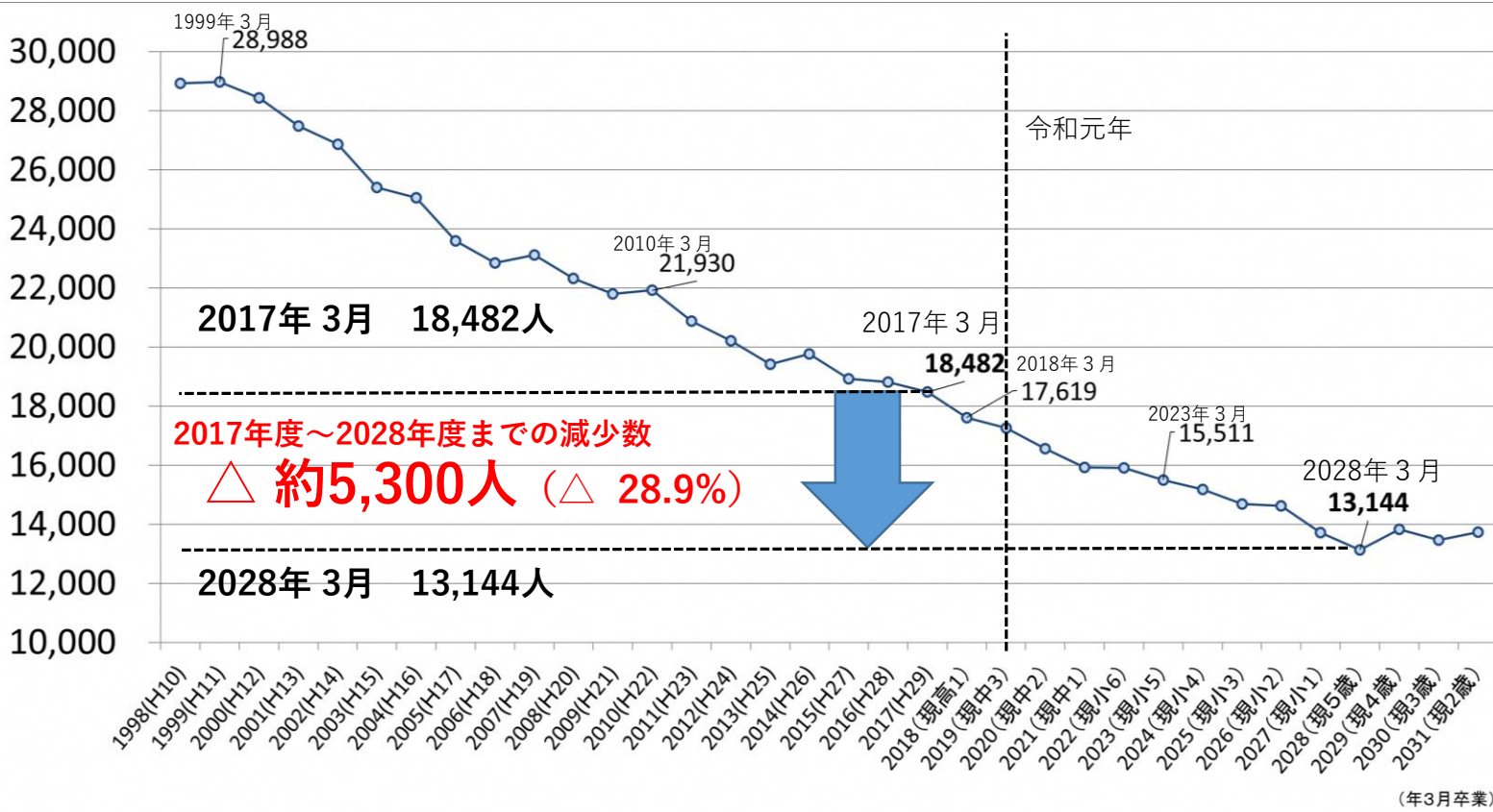
本日の進め方

I	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
II	川俣高校の現在の状況
III	今後の再編整備について

I 県立高等学校改革前期実施計画策定 の経緯

1 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

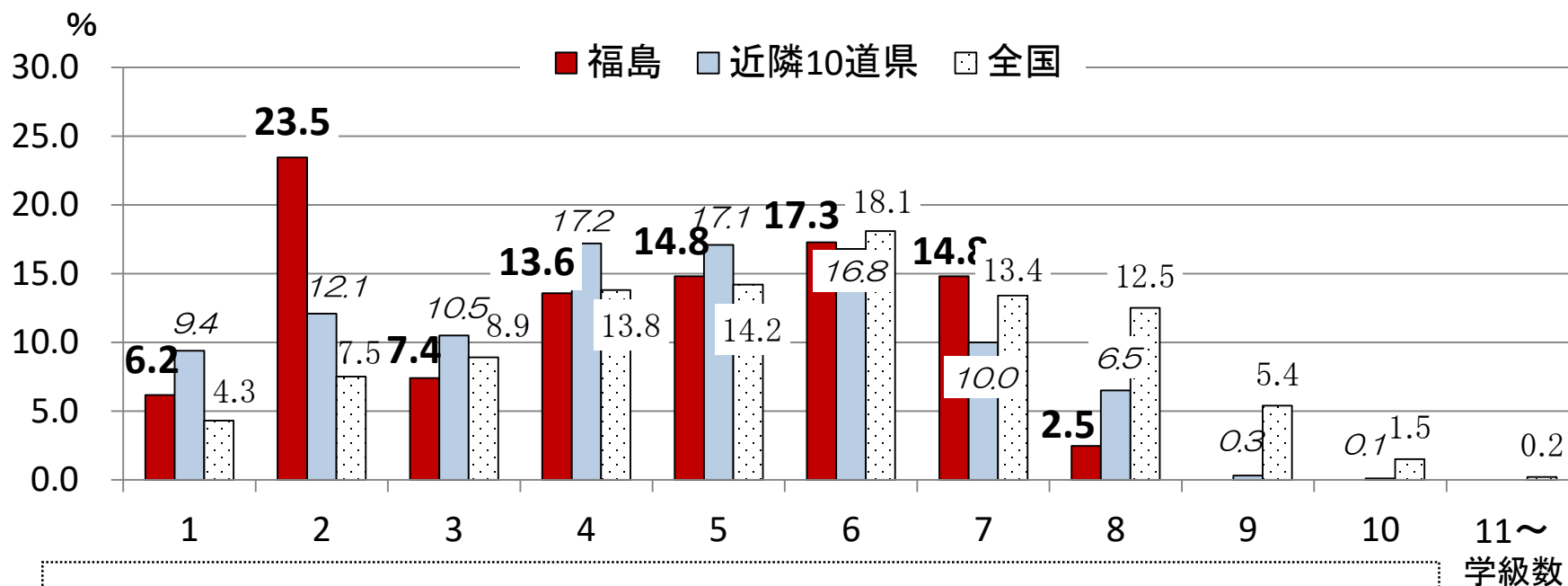
中学校卒業（見込）者数の推移（人）



出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

2 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度(平成30年度)都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化**
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「第一次まとめ」(平成9年) 「第二次まとめ」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度)答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

4 県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

- 基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進
- 基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上
- 基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化
- 基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

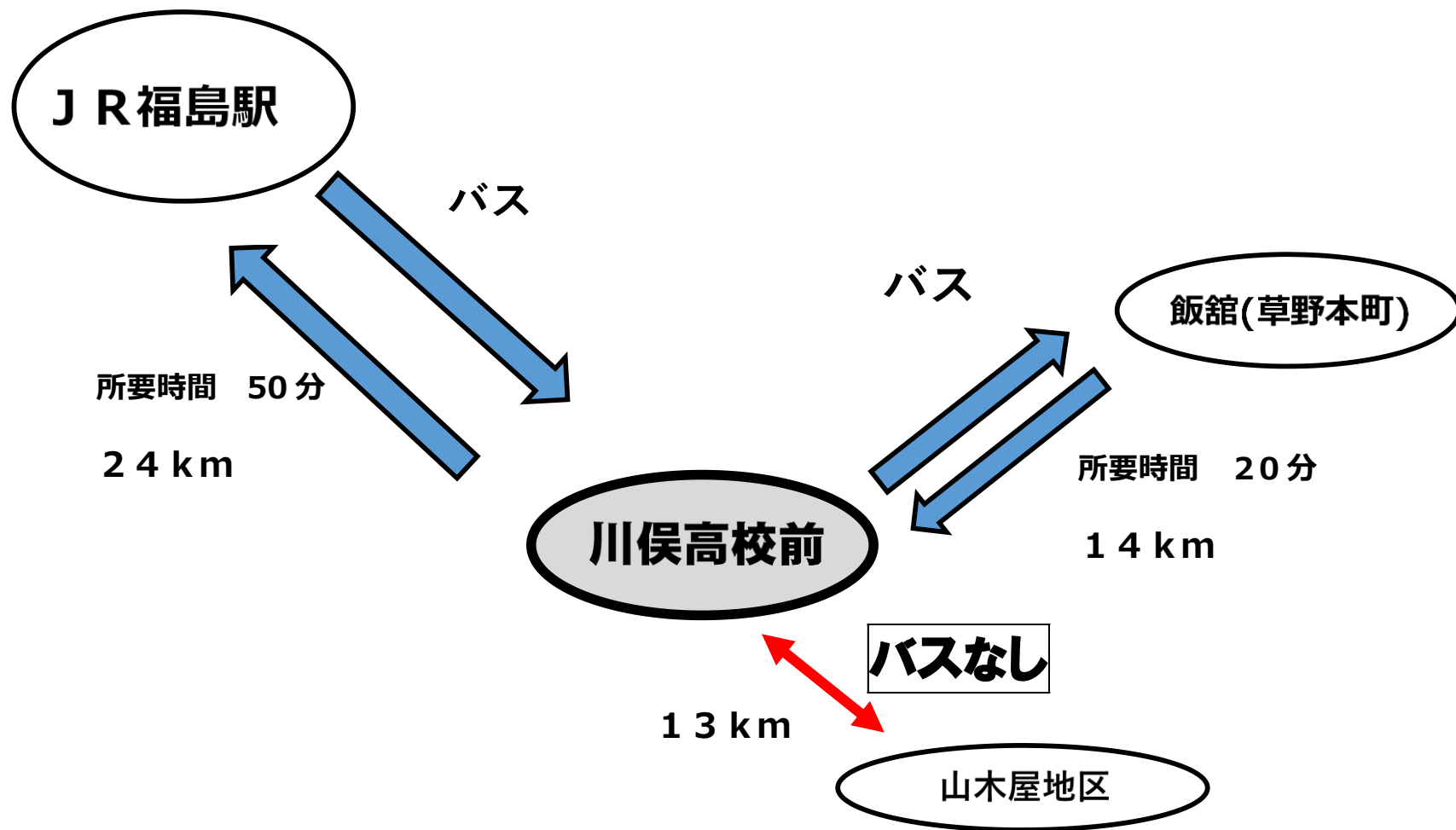
職業教育推進校

地域協働推進校

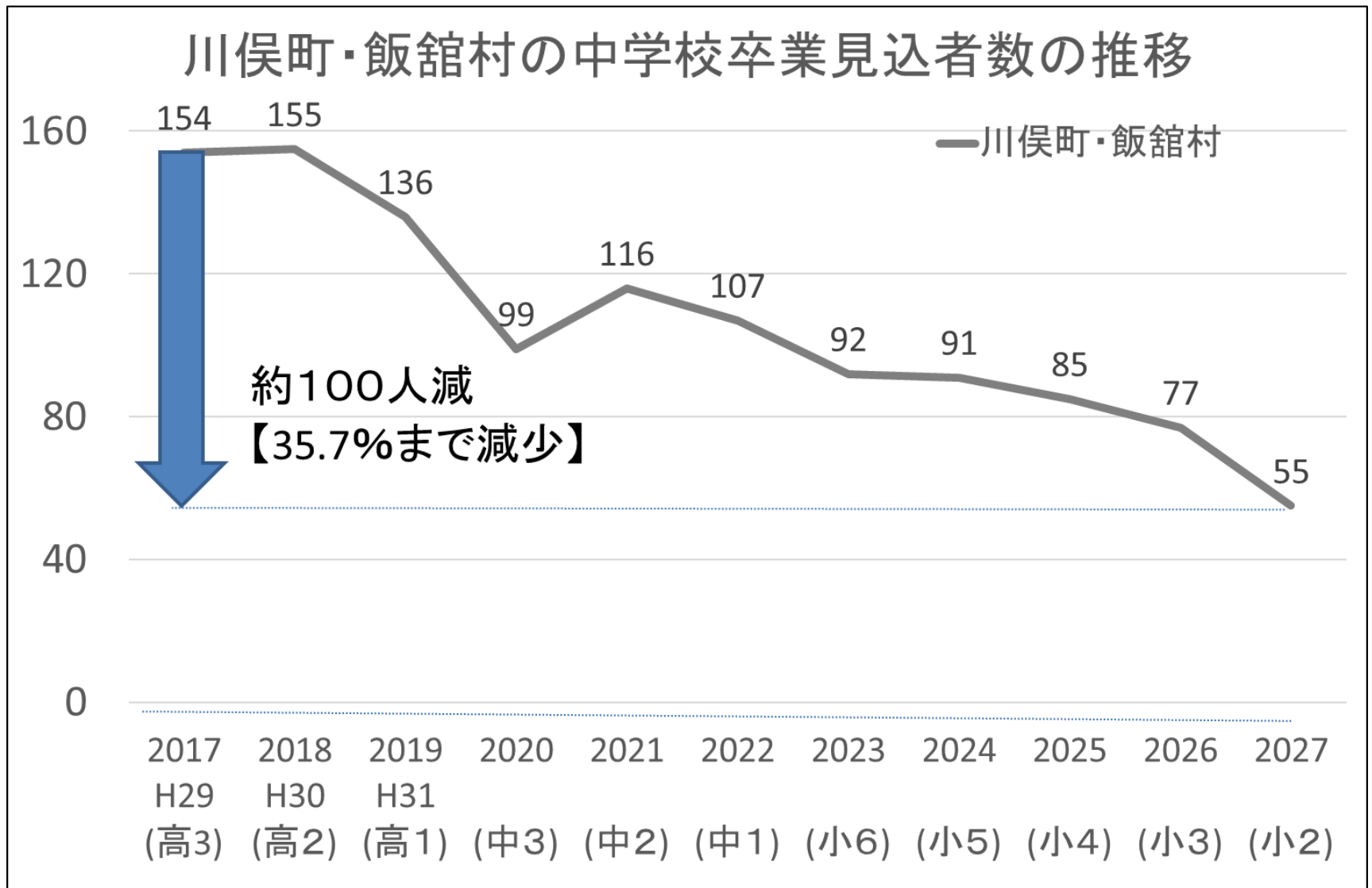
定時制・通信制高校

Ⅱ 川俣高校の現在の状況

5 川俣地域の交通の状況



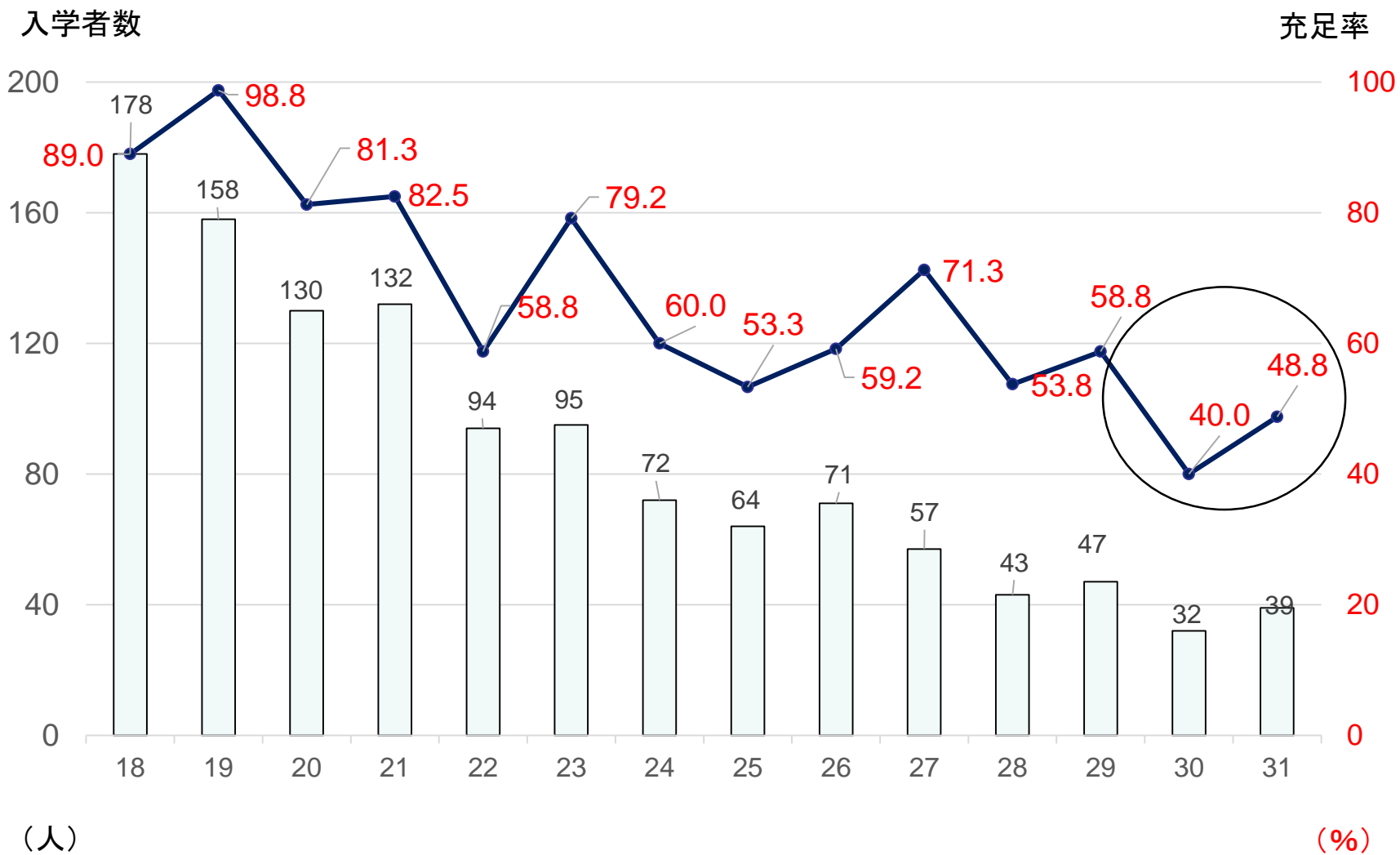
6 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



7 川俣高校入学状況（平成18年度～平成31年度）

年度		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通科	募集定員	160	120				80				40				
	入学者数	140	118	97	97	65	61	52	39	49	34	26	28	24	21
	普通科の充足率	88%	98%	81%	81%	54%	76%	65%	49%	61%	85%	65%	70%	60%	53%
機械科	募集定員	40													
	入学者数	38	40	33	35	29	34	20	25	22	23	17	19	8	18
	機械科の充足率	95%	100%	83%	88%	73%	85%	50%	63%	55%	58%	43%	48%	20%	45%
募集定員（普・機）		200	160				120				80				
入学者計		178	158	130	132	94	95	72	64	71	57	43	47	32	39
募集定員全体の充足率（%）		89%	99%	81%	83%	59%	79%	60%	53%	59%	71%	54%	59%	40%	49%

8 川俣高等学校の入学者数の推移



9 川俣高校生の主な出身中学校と人数・割合 (H30)

平成30年度出身中学校地区別在籍数

出身 中学校	1年	2年	3年	合計	割合	地元率
川俣	20	27	27	74	63.2	87.1
山木屋	1	1	3	5	4.3	
飯舘	0	3	2	5	4.3	
飯野	5	6	2	13	11	
月舘	3	0	2	5	4.3	
松陵	1	2	0	3	2.6	
福島一	0	2	0	2	1.7	
その他	3	4	4	11	9.4	
合計	32	45	40	117		

※地元率

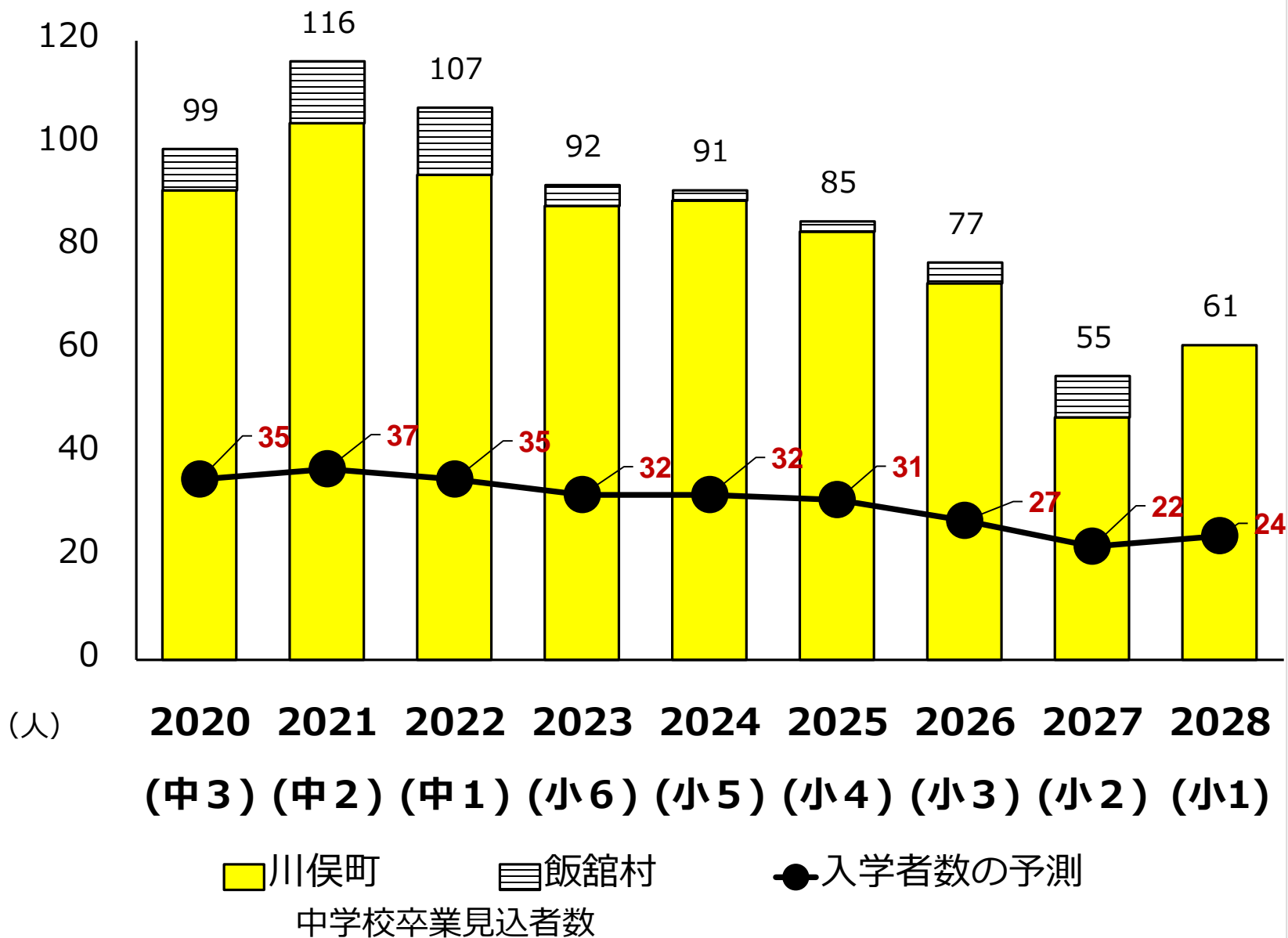
(過去3年間)

H30 87.1%

H29 86.4%

H28 87.7%

10 川俣高校への入学者数の予測



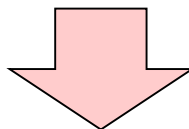
Ⅲ 今後の再編整備について

11 川俣高校の今後について

福島県教育委員会の方針

前期実施計画における
過疎・中山間地域の学習機会確保のための例外的措置

地元からの入学者の割合が著しく高い



**普通科の1学級本校化
地域協働推進校**

地域における
幅広い学びの確保

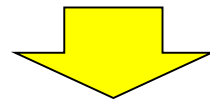
12 1学級本校化のメリットとデメリット

(1) メリット

- 本校として学校が維持される。
- 学校が存続することにより、今まで通り町内の生徒が川俣高校へ通学することができる。
- これまでの学校の伝統を生かしながら、地域を支える人材の育成が可能となり、町の発展に繋がる。
- 引き続き校長が常駐することになり、リーダーシップによる安定した学校運営が可能となる。
- 養護教諭、事務職員の配置が引き続き可能となる。

(2) デメリット

- クラス替えができず、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- 学校規模が小さくなるため部活動の種類がこれまで以上に限定される。
- 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。



デメリットの克服に向けて

福島県教育委員会

特色化に応じた支援
を検討(教職員の配置、
学校運営の支援等)

川俣高校

魅力あるカリキュラムの検討

川俣町

支援の継続

13 川俣高校の方向性

1 学級本校化後の川俣高校のイメージ図

地域協働推進校

地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成を図る高等学校

- ふくしまイノベーション人材育成推進校
企業や大学と連携し、工業科の学びを継承した「ものづくりのための基礎的な知識の習得や体験的な学習活動」を取り入れ、今後も地域産業の人材育成を図る。
- コミュニティ・スクールの導入
地域の声を学校運営に反映させ、地域との協働による教育活動の一層の推進を図る。

1 学級本校化に向けて検討する特色化の例

丁寧な学習指導
キャリア教育

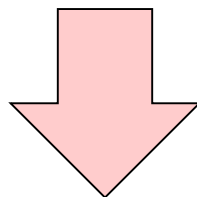
工業の学びの継承

福島イノベーション
人材育成事業

探究型・課題解決型学習
の充実

14 1 学級本校化にあたって…

学校と地域との更なる連携



川俣高校の更なる
魅力化・特色化

15 今後の改革懇談会の進め方(案)

5月

第1回 改革懇談会（本日）

- ・ 1学級本校化についての説明
- ・ 御意見の聴取（1学級本校化について／学校の魅力化について）

7月以降

第2回 改革懇談会（予定）

- ・ 第1回懇談会の意見に対する回答
- ・ 学校の魅力化についての検討
- ・ 御意見の聴取、課題の確認（教育課程／校内組織／部活動）
- ・ 学校と地域の今後の連携の確認
- ・ 語意見の聴取

10月

募集定員を公表

校内の教育課程委員会等により教育内容の検討
【県教委との連携】